

# 広島から現代政治を考える―平成年間の政治対立軸とその展望

大井赤亥（広島工業大学非常勤講師）

報告者は政治思想・現代政治を専門とする政治学者であり、また 2021 年には第 49 回衆院選に立候補した経験を持つ元候補者でもある。このような経歴を通じて、報告者は、理論と現実を架橋し、時代を掴む政治学を模索してきた。

今回の報告の目的は、以下の二つである。第一に、現代日本政治の見取り図として「保守・旧革新・改革」の三極からなる 1993 年体制を提示すること。そして第二に、2021 年衆院選において報告者が実際に活動した、広島における現実政治の経験と知見を共有したい。

## 1993 年体制と「3・2・1の法則」

平成年間の日本政治を捉える認識枠組として、報告者は「1993 年体制」という枠組を提示してきた。すなわち、1993 年の自民党分裂と政界再編によって、日本政治の構図は、55 年体制下の「保守」と「革新」の二項対立から、ポスト冷戦期における「保守・旧革新・改革」の三極構造に変化したというものである。

冷戦終焉によって社会党が急速に衰退するにつれ、保守勢力が自民党にまとまる必要がなくなった。その結果、1990 年代以降、旧来の自民党のコンセンサス型意思決定と利益誘導政治に対し、それを保守内部から批判する勢力が出てきて、「改革」を唱えるにいたった。1993 年の自民党分裂と、日本新党や新進党、さきがけといった「非自民保守系改革派」の登場によって、日本政治は「保守・旧革新・改革」の三極構造へと移行することになったのである。この三極構造は、それぞれの政策的布置とそれを支える有権者において、例外はあるものの、基本的に過去 30 年間の日本政治を規定してきた。

## 自民党「一強」の秘訣

このような政治学的認識を踏まえつつ、報告者は、自身の郷里広島から 2021 年衆院選に立候補することになった。日本の民主政治の健全な選択肢の拮抗のためには、自民党に対抗できる野党の構築が不可欠だと考えたためである。

広島政治風土は「保守王国」といわれ、長らく自民党宏池会の強い地盤であり、戦後は池田勇人と宮沢喜一、岸田文雄という三人の総理を輩出している。自民党の強みは、第一に「地域」であり、祭りや道路整備などを通じて、町内会や社会福祉協議会などに深く浸透している。第二に「業界団体」であり、自民党の友好団体には行政書士政治連盟、医師連盟、神社政治連盟、看護連盟、農協など多くの業種が含まれており、それらにまんべんなく網をかけることで包括政党の性格を帯びている。第三に、地方議会における自治体議員の多さであり、保守系無所属も含めて、地方議会での自民党の分厚さは国政選挙における同党の底力になっている。

## 民主党系野党の現状

他方、民主党系野党の場合、総支部長（次期衆院選候補予定者）は、政党の「支店長」というより「のれん分け」であり、基本的に個人での活動を強いられる。もちろん、政党や選挙をめぐる現行制度の下では、政治家は一定程度「使い捨て」という側面は否めない。民主党系政党の場合、党本部から月額 50 万円程度の活動費は支給されるが、その後は自分で後援会作りに専念し、勝ち残った者だけ生き残るという放任教育といえる。

そんな民主党系政党にとって、労働組合の連合は選挙の際には大きな応援団となる。連合の組合員は、実際の選挙戦を 3 週間わたって支えてくれ、事務所設営、公選ハガキ、街宣日程ロジ、告示日の公営ポスター貼りだしなどを担ってくれることになる。

### 「身を切る改革」を求める素地

2010 年代以降、日本政治の「改革」勢力として関西を中心に根強い地盤を築いてきた維新の会はどうだろうか。広島では、維新は国政選挙に候補者を立てる力はあるが、当選者を生み出すまでの支持を得ておらず、維新の中国地方への進出は弱い。

しかし、コロナ禍で自営業者を中心に声を聞けななかで、広島でも「身を切る改革」を支持する素地は強く感じられた。報告者は、コロナが広がった 2020 年 4 月以降、持続化給付金などの支援策の周知のため、飲食店を徹底的に訪問する活動を行った。これらの活動のなかで、印象的なことが二つあった。第一に、民間自営業者における行政への不信である。たとえば、国や県からコロナ支援策が出たとしても書類申請や応募方法がわかりにくい、実際の給付が遅すぎる、問い合わせの電話が繋がらない、窓口に行っては対応が「上から目線」といった不満である。

第二に、飲食業をはじめ自営業者には、税は「しょっ引かれるもの」という感覚があり、その恩恵を受けているという実感に乏しい。そのため、政治への要求としては「税金の使い方をしっかりチェックしろ」という声が非常に強い。自分たちの才覚や努力で店を営み、不況やコロナに直面しても自己責任という意識の民間事業者にとって、「巨額の歳費をもらいながら国会で居眠りをする政治家」というイメージは根強く、このような意識の上に「身を切る改革」を訴える声はきわめて容易に浸透する。

### 未知の時代に踏み込む日本政治

「保守・旧革新・改革」という三極構造は、このように、それぞれにおいてそれを支持する有権者層があり、現在の日本政治を規定している。この三極構造が将来どのように変化するかは見通せず、日本政治は未知の領域に入っていく。流動的な時代であって、政党や政治家の側も、新しい日本社会の姿をめぐる「展望への旅 (Vision Quest)」を求められることだけは確かである。